

施策 No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	企画課	主管課長名	坪井 昭
6-3	施策名	時代に合った自治体運営	関係課	秘書広報課、総務課、財政課、市民課、総合窓口課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	計画的により適切で効果的な行政サービスが提供されている。	施策 事務事業	①施策	施策	見込値	31	31	31	31	31
実績値					31	31	31	31	31	
②事務事業			事業	見込値	869	869	869	869	869	
				実績値	869	828	836	831	843	
					見込値					
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
		①総合計画に掲げた成果指標が目標値を達成できた施策の割合	%	目標値	35.00	43.75	52.50	61.25	70.00	
				実績値	48.7	37.60	38.18	36.45	33.64	
		②第3次行財政改革の計画達成度	%	目標値	66.0	74.5	83.0	91.5	100.0	
				実績値	80.3	87.8	89.7	91.8	97.2	
		③実際に窓口を利用した人が窓口を利用しやすいと感じた市民の割合	%	目標値	64.0	65.5	67.0	83.0	83.0	
	実績値			64.0	76.8	82.2	82.3	82.7		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
成果指標設定の考え方	①総合計画を基軸とした計画行政を推進し、令和3年度における総合計画に掲げた成果指標中の目標値を達成できた割合70%を目標としている。②第3次行財政改革大綱・実施計画に基づく行財政改革の推進により、令和3年度における計画達成度100%を目標としている。③適切で効果的な行政サービスが提供されているについては、「実際に窓口を利用した人が窓口を利用しやすいと感じた市民の割合」で把握する。									
成果指標の把握方法と算定式等	①総合計画に掲げた成果指標が目標値を達成できた施策の割合は、総合計画に掲げた全施策の成果指標の達成割合より求める。②第3次行財政改革の計画達成度は、行財政改革の計画達成度より求める。③実際に窓口を利用した人が窓口を利用しやすいと感じた市民の割合は、市役所各庁内の窓口で実施のアンケートより求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
背景・要因	①「総合計画に掲げた成果指標が目標値を達成できた割合」については、令和2年度36.45%に対し、令和3年度は33.64%と、2.81ポイント低下している。 ②「第3次行財政改革の計画達成度」については、令和2年度91.8%に対し、令和3年度は97.2%と、5.4ポイント向上した。要因については、令和元年度に検討段階であったものが実施段階(一部実施)に移行したためと考えられる。 ③「実際に窓口を利用した人が窓口を利用しやすいと感じた市民の割合」については、市役所各庁内の窓口アンケートで令和元年度が82.2%、令和2年度は82.3%、令和3年度は82.7%と0.4ポイント上昇している。		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
背景・要因	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った <input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った ①「総合計画に掲げた成果指標が目標値を達成できた割合」については、現在把握できる成果指標110の内、37指標が目標値を達成できたため33.64%の達成率であり、目標値70%に対し、36.36ポイント下回った。 ②「第3次行財政改革の計画達成度」については、目標値100%に対して、2.8ポイント下回った。 ③「実際に窓口を利用した人が窓口を利用しやすいと感じた市民の割合」については、目標値83%に対し、実績値82.7%で0.3ポイント下回っているが、令和2年度に目標値を16ポイント上方修正しているため、目標値には届かなかったものの前年度の実績値を0.4ポイント上回っている。以上のことを加味した上で、総合的に判断し一部の成果指標で目標値を下回ったとした。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 (1)総合計画進行管理事業については、「桜川市第2次総合計画後期基本計画」を策定した。 (2)新庁舎建設検討事業については、「桜川市新庁舎基本計画」を策定した。 (3)マスコットキャラクター作成事業では、桜川市合併15周年記念事業として全国からデザインと愛称を募集し、選考会でマスコットキャラクターを「さくりん」に決定した。また、「さくりん」の着ぐるみ、ぬいぐるみ、ウェルカムボード等を作成し、市のPRに繋がった。	令和4年度においては、より良い自治体運営に向けて以下の取り組みを重点的に行う。 (1)令和3年度に策定した桜川市第2次総合計画後期基本計画の適正な進捗管理を行う。 (2)新庁舎建設基本計画に基づいて、新庁舎の基本・実施設計や、開庁に向けた組織機構を進め、効率的かつ効果的な事業の進行管理を行う。 (3)市のマスコットキャラクター「さくりん」がまだ市民に浸透していないため、グッズ作成やイベント時に着ぐるみ「さくりん」を登場させる等、周知、活用することにより市のイメージアップを図る。